資料１．村上総合病院移転後の跡地を含めた地区の位置づけ

＜跡地活用の基本的な考え方＞

～当該地区はどのような場所なのか？ ～

〇基幹病院や文化施設、教育施設にくわえて、商店街や銀行・郵便局などの生活施設や事業所が集積しており、日常的に多くのかつ様々な市民が訪れる場所。
〇多くの市民が居住している住居系市街地でもある。
〇鉄道や乗合バスが集約する交通結節点（市民の移動がしやすい場所）
〇村上駅は観光都市としての玄関口であるが、地区内に観光資源は少ない。

～当該地区は、将来にどのような役割を果たすべきか？ ～
＜跡地はどのように活用されるべきか？＞

①『市民生活の質の向上』を第一に考えるべき場所

②多様な市民のために開かれた空間で、その機能は公的な整備により持続的に確保されることが望ましい

③時間・曜日を問わず多様な市民が活動する場所

④今ある機能（活動）に、今は無い機能（活動）を加えることで、市民の新たな交流を生み出すチャレンジ空間

～人口減少と少子高齢化が進む社会における対応～

【機能集積による効率化】

・人口減少が進む社会では、機能集約による効率化が重要な要素となる。既に複数の都市機能が存在している当該地区に、より多様な機能を集約させることで、都市の効率化と持続的な発展を図る。

【高齢者の社会参加】

・今後増え続ける高齢者の「社会の一員」としての役割は一層重要となる。元気な高齢者が、社会に参加する機会や場をつくることは重要である。

【子育て環境づくり】

・人口減少を食い止めるためには、「子育てがしやすい社会」をつくることが重要である。少子化が進む一方で、子を持つ親の生活スタイルは年々多様化しており、様々なニーズに対応した環境をつくる必要がある。

＜地区の位置づけ＞

市民交流促進地区
～市全体に新たな魅力と活力を生み出す市民交流の中心地区～

【整備イメージ】
〇子どもからお年寄りまで多様な市民が集まる場
〇様々な出会いと新たな交流活動を生み出す場
〇生活の安心と心の豊かさを高めてくれる場
〇市民の元気と活力を創造する場
〇村上市に暮らすことへの誇りと愛着を育む場